

浪田陽子

専門はメディア・リテラシー（メディア教育）。コア科目の「現代とメディア」や「子どもとメディア」も担当しています。学校教育や生涯学習におけるメディア・リテラシーの定着をめざした研究・活動を行っています。子ども時代を含め最近までカナダ生活が長かった為、アメリカ・メディアのカナダへの流入とカナダ人のアイデンティティー形成をめぐる関係、多文化主義政策にも関心を持っています。趣味はピアノとフルート演奏。

1. 専門演習の目標

メディア・リテラシーの基本概念を理解し、今までより積極的に楽しみながら様々なメディアと接することができるようになることをめざします。これまで「当たり前」「普通」だと思っていたことを違った角度から眺め、視野を広げることにより、クリティカルな思考力を身につけるのがメディア・リテラシーの学びです。

2. 専門演習で扱う課題と内容

本ゼミでは、メディア・リテラシーを「メディア社会をより主体的に生きるための力、またその力を養うための取り組み（教育）」と広く捉え、多様な角度からメディアの研究・実践をすすめます。国内外の文献をもとに理論を学ぶとともに、実際にメディア・テキストを分析することで、個々のメディアの特徴や社会におけるメディアの役割、メディアが伝えようとしている価値観などを考察します。また、製作側の意図や目的、メディアの商業的要素やオーディエンスとメディアの関係などについても検討します。分析の対象となるのは、テレビや新聞、雑誌に加えインターネットなどのデジタル・メディア、広告やポピュラー・カルチャー全般と多岐にわたります。3回生後期には小学校へメディア・リテラシーを教えに行くグループもありますので、メディア・リテラシー先進国と言われる英国やカナダの学校におけるメディア教育の実践についても学びます。

3. 授業の進め方・内容

3回生前期 - 文献購読やメディア分析の実践を通して、メディア・リテラシーの定義や基本概念を理解することをめざします。並行して、後期から本格的に始めるグループ・ワークのテーマ設定の準備も始めます。

3回生後期 - 4、5名のグループで実践研究を行います。プレゼンやディスカッションも行いながら、各グループの研究を深めていきます。研究の成果をどのようにアカデミックな論文にまとめるのかも学びます。テーマによっては、小学校や高校にメディア・リテラシーを教えに行ったり、イベントを企画したりといった活動を伴う

場合もあります。

4回生前期 - 各自卒論のテーマと研究の方向性を決め、「卒論計画書」を仕上げます。

4回生後期 - 個人報告やゼミでのディスカッションを参考に、各自卒論の執筆を行います。

4. 必要とする知識

世の中のあらゆる事柄が、メディアを通して伝えられています。自分はそのをどう受け止め、どう考えるのか。普段から、問題意識を持っていることが大切です。

5. 関連する分野・科目・知識

担当教員の「メディア・リテラシー論」あるいは「子どもとメディア」の講義を受講していることが望ましい。(3回生時の履修も可)。

6. テキスト・参考書・機材(受講生が標準的に持つもの)

テキストにする本を数冊、必要に応じてゼミで指示します。

7. 独自に付加する選考方法

個人面接を行います。応募書類の記載事項をもとに一人5～10分程度です。詳細は応募締め切り後に掲示が出ますので、見逃さないよう注意すること。

8. 受講生に望むこと

グループ活動が中心ですので、積極的にアイデアを出し、かつ他の人の意見も尊重しながら協力して学ぶ姿勢が望まれます。身近なメディアを少し違った角度から見てみたいと思う人、英語の得意な人、北米メディアに興味がある人は大歓迎です。